

となりの

ミコトツキ

飼育下の繁殖状況

2014年は出雲市トキ分散飼育センターを含む全国7か所のトキ飼育施設で、30組のペアで繁殖に取り組みました。これらのペアから165個の卵が産まれ、このうち54羽のトキが順調に成育しています。この結果、我が国の飼育下におけるトキの総個体数は221羽となりました。

繁殖により増加したトキの多くは放鳥候補個体となります。そのため、各トキ飼育施設では放鳥に適した個体を繁殖するよう努力しています。放鳥に適した個体の条件の一つは、野生でペアになりやすいことです。卵を温める機械(ふ卵器)を使ったり人工飼料を飼育員が与える「人工繁殖」よりも、トキ自身が卵を温めヒナを育てる「自然繁殖」の方が野生でペアになりやすい傾向にあること

第7回



から、出雲市でも自然繁殖に取り組みました。

出雲市で飼育する3組の内、NペアとAFペアの卵から5羽のヒナがふ化し全羽が巣立ちました。AKペアが産んだ9個の卵の内5個は割れ、4個は無精卵でした。

次回は、放鳥状況について紹介します。

2014年 出雲市トキ分散飼育センターの繁殖結果

ペア	産卵数(個)	ふ化数(羽)
N	4	1
AF	10	4
AK	9	0
合計	23	5

おたずね/出雲市トキ分散飼育センター ☎1350

しまね地球温暖化防止活動大賞表彰式が行われました



島根県地球温暖化対策協議会の猪野会長を囲んで、県内の受賞者が記念のカメラに。(前列右から2番目が木村さん、後列左から2番目が檜山小学校足立校長、後列右端がスター精機金山さん、その左隣がジンザイサニテック金築さん)

8月29日、「平成26年度しまね地球温暖化防止活動大賞表彰式」が行われ、地球温暖化の防止に関し、先進的または他の模範となる個人、事業者、学校の活動実績をたたえました。受賞者のみなさん、おめでとうございます。

市内の受賞者(敬称略)

木村京子(生活部門 大賞)

平成20年からエコライフチャレンジしまねに継続して参加し、取組実績も高評価を維持している。また、環境や省エネに関する講演会に積極的に参加するとともに、地域の方々にも省エネを呼びかけるなど意欲的に活動している。

株式会社スター精機出雲工場(事業者部門 優秀賞)

施設に省エネ設備を導入するとともに、エネルギー消費抑制を図る運用基準を定め、環境配慮型経営に努めている。時系列的にCO<sub>2</sub>排出量等の検証を行い、社員に周知し、経営が環境に与える負荷を意識することに取り組んでいる。

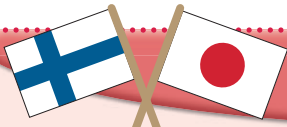
出雲市立檜山小学校(学校部門 優秀賞)

全校で「晴れの日節電」に取り組むとともに、学校版エコライフチャレンジしまねにエネルギー使用量を記録することで、節電の成果を見える化し、活動の励みとしている。また、資源や環境への意識醸成のため、エコキャップ運動に参加している。

有限会社ジンザイサニテック(事業者部門 優秀賞)

平成20年にエコアクション21を認証取得。企業活動を通じて、地域環境・地球環境の保全に努め、健全でクリーンな未来社会実現に貢献することを基本理念として、エネルギー及び資源使用量の削減等に取り組んでいる。

おたずね/環境政策課 ☎21-6987



# 国際交流のひろば

vol.5

## 歴史あるトゥルク市

みなさん、こんにちは！国際交流員として8月から着任したアンナカイサ・ハヴェリネンです。名前は長いので、みなさん「アンナ」と呼んでくださいね！



こんにちは！  
国際交流員の**アンナ**です。  
フィンランドから来ました。

私の出身はフィンランドの旧首都であるトゥルク市です。トゥルク市と言えば、中世(西暦500年～1400年)のフィンランドが思い浮かびます。トゥルク市は13世紀後半に築かれた都市で、川や城もあり、大聖堂もある歴史ある都市です。トゥルク市のどこへ行っても、古い歴史が体験できます。

毎年トゥルク市でやっている「中世マーケット(フィンランド語で「Keskiäikaiset markkinat」)」というイベントはそのいい例です。職人は中世風の服を着たままで小さな店を開き、演劇もします。店で中世風グッズ(例:小刀・鉄のコップ)や食べ物(例:りんご飴・長い間火で焼いた豚肉)を売っていて、マーケットの近くでは、馬上槍試合などいろいろな中世の競技も楽しめます。

出雲に着いたばかりの私でも、出雲には長い歴史があると感じました。これから出雲の歴史を学びたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。



国際交流員は、国際理解教育の場などに積極的に参加し、地域の国際化のために活動しています。  
おたずね/国際交流室 ☎21-6576

## 樹木のドクター

Vol.7



# 樹医からのアドバイス

## 冬支度：紅葉そして落葉

日本の四季を彩るもの一つに、秋の紅葉があります。カエデやハゼノキの赤色、イチヨウの黄色、時には褐色の葉なども見られます。私たちが楽しませてくれる紅葉は、樹木の冬支度の一環なのです。

### どうやって色が変わるの？

植物の色素には、太陽の紫外線が当たって生み出される有害な活性酸素を消去する働きがあります。美しい花びらの色は、植物の自己防衛の結果というわけです。

秋に入り気温が低く、日照時間が短くなってくると、葉の老化現象が進み、色素の分解・合成が起こります。葉に含まれる緑色素クロロフィルの分解が進むと、元々葉に含まれていた黄色色素カロチノイドが目立ってきます。これがイチヨウなどの黄葉です。一方カエデなどの紅葉は、葉に蓄積された糖から赤色素アントシアニンが作られることによります。

### なぜ落葉するの？

秋になり葉の働きが弱まると、樹木は無駄な部位を落としてエネルギーを蓄えようとします。葉の付け根に離

層という膜ができ、光合成で作られた養分や根から吸収した水分が行き来できなくなり、そして最終的には切り離されて落葉します。

紅葉する落葉樹も、葉をつけたまま冬を越す常緑樹も、枝の先に大きな冬芽を膨らませ、冬に耐えて春を待ちます。樹木の冬支度を助けるには、病落叶や枯枝の焼却処分、寒肥(有機肥料)の施し、土の天地返しなどに心がけてください。



紅葉するカエデ

おたずね/出雲市樹医センター ☎26497